



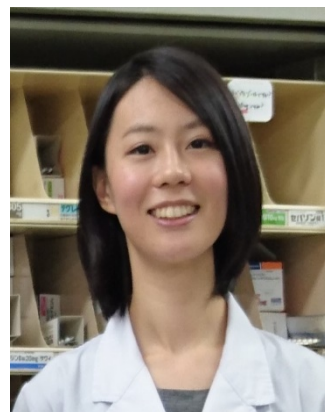
# けやき会通信



## シックデイと糖尿病治療薬

薬剤部 栗山亜衣

少しずつ暖かくなってきましたが、季節の変わり目で体調を崩される患者様も多いのではないのでしょうか。現在、糖尿病の治療薬は DPP-4 阻害薬や GLP-1 製剤、SGLT2 阻害薬など様々な薬剤が発売されています。治療に用いられる薬剤が多様化する中で、具合が悪くなった時に自身のお薬の調節はどうしたらいいのか、判断に迷うことも多いかと思えます。



糖尿病患者様が治療中、発熱、下痢、嘔吐をきたしたり、食欲不振になって食事が出来なくなるなどの体調不良の状態をシックデイと呼びます。

シックデイでは、ストレスにより普段よりも血糖値が高めになります。食事が摂れていないからといってお薬を中断すると、高血糖や重篤な合併症を引き起こす場合があります。逆に、普段通り飲み薬やインスリンを使用すると低血糖を引き起こす場合もあります。このようにシックデイでは血糖値が乱高下しやすいため、血糖コントロールが難しくなります。薬物治療をしている場合の対応については特に注意が必要となるため、正しい対処法(シックデールール)を守り、早めに医師に相談するようにしましょう。以下、薬剤調節の目安をお示ししますが、対応は患者様の病態によって異なります。必ず医師に確認しましょう。



### <飲み薬、GLP-1 製剤の場合>

- SU 薬、速効型インスリン分泌促進薬…食事が半分程度であれば服用量も半分に、1/3 以下であれば服用を中止する
- $\alpha$ -グルコシダーゼ ( $\alpha$ -GI) 阻害薬、ビグアニド (BG) 薬…消化器系に影響が及ぶので中止する
- チアゾリジン (TZ) 薬、DPP-4 阻害薬…食事が半分以下であれば服用を中止する
- SGLT-2 阻害薬…ケトン体を上昇させ、SU 薬やインスリンとの併用で低血糖を生じやすいので、中止する。また、中止後 2~3 日でも尿量の増加があるため、脱水にも注意する
- GLP-1 製剤…消化器症状(下痢、嘔吐)がある時、食事が半分以下であれば中止する

### <インスリン製剤の場合>

食事が摂れていなくても、インスリンを自己判断で中断してはいけません。基本的に中止はしませんが、食事量や血糖値に応じて単位を調節することがあります。自己血糖測定をこまめに(約3~4時間ごと)行い、必ず医師に相談、確認しておきましょう。

シックデイはいつ、どんな時に起こるかわかりません。急に起こり、普段と違う医療機関へ受診する場合も多くなります。そのような場合には、自身が使用している飲み薬やインスリンの名前と量をきちんと把握しておくことが大切です。日頃から、糖尿病連携手帳やお薬手帳など、最新の情報のものを携帯しておきましょう！